

秩父・皆野新校準備委員会（第3回） 議事録

1 日 時 令和5年11月30日（木） 午後1時30分開会
午後3時30分終了

2 会 場 県立秩父高等学校図書館2階研修室

3 出席委員 依田委員長、守屋副委員長、浅見副委員長、金田委員、嶋田委員、
三橋委員、松本委員、堀口委員、大沼委員、小菅委員、浦島委員、
若林委員、横田委員、田島委員、廣川委員

4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本

5 協 議 「秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）」について

依田委員長 それでは次第2、協議に入ります。まず、協議に当たって事務局から資料の概要について説明をお願いします。

事務局 （資料の概要について説明）

依田委員長 資料の概要について説明がありましたが、この時点で何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、中身に入ってまいりたいと思います。【資料1】秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）について説明）

依田委員長 はい。それでは、資料1と参考資料1を御覧いただきながら説明がございましたが、いかがいたしましょうか。それではまず、全体を通して、皆様から御意見、御質問等をいただいてまいりたいと思います。その後、個別に、ページごとに確認していきたいと思います。それでは、この基本計画案の全体を通して、御意見、御質問等があれば、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。はい。松本委員、お願いします。

松本委員 秩父商工会議所の松本です。繰り返しになるかもしれませんが、2点ほど質問、お願い等がございます。まず1点目ですが、何度も申し上げているように、秩父地域から商業科がなくなることをご大変危惧しております。皆野高校の生徒と卒業生の皆さんは、秩父で就職してくださるケースが非常に多く、商業や観光産業の担い手になってもらえる可能性が極めて高い生徒さんだからです。そのような生徒を秩父の高校で受け入れられなくなるということに対して、みすみす流出させてしまうということに対して、大変残念に思っているということがあります。そして、本来であれば、統合する秩父高校に、皆野高校が取り組んでこられた、地域密着で特色ある学科を設置していただくのが望ましいとは存じますが、それがどうしても叶わないのであれば、秩父農工科学高校、小鹿野高校を含めて、せめて秩父地域の

中で、皆野高校のレガシーの受け皿となる学校をつくっていただくよう、今後の検討をお願いしたいと思っております。これが1点です。2点目は、非常に人口減少が進む中で、埼玉県の方で、秩父地域の県立高校を、どのような形で将来の教育像をお考えになるのかということ、できれば全体像をお示しいただけたら有り難いと考えております。秩父高校は、特進クラスではかなり大きな成果を上げていると聞いておりますが、現実的には外からの流入はないと聞いております。その分、秩父から流出することは何としても避けたいというのが、1点目につながってくるわけですが、そういった意味で、秩父地域の生徒にとって、秩父地域の県立高校で幅広い選択肢があって、夢と希望に満ちた高校生活を秩父地域で送れるようなイメージを作っていただければ、流出も多少食い止められるのかなと思います。県の方でも学び直しということをおっしゃっていると思いますが、そういった受け皿としても、今のところこれが存在しませんので、その辺の受け皿となる学科、あるいはコースといったものを、今後に向けて是非御検討いただければと思います。これが2点目です。

依田委員長 それでは、今、2点いただきましたので、一つずつ確認してまいります。

まず1点目、皆野高校の商業科がなくなってしまうというお話の中で、秩父地域の中で、いわゆる地域で活躍できる人材の受け皿となる学校をとというお話があったと思います。これについて、事務局の考え方を説明いただきたいと思っております。

事務局 御意見ありがとうございます。確かに、この秩父エリアから商業科という専門学科を持つ学校がなくなるということは事実でございます。ですが、この新しい学校の中にも、そうした学びを取り入れる余地はあると思っております。例えば、皆野高校がこれまで取り組んできた、地域の皆さんとつながって様々な探究的な活動を行う中では、商業的なアプローチも当然あると思っております。来年度になりますと、新校の教育課程を練っていくわけですが、その中に商業系の科目を加えることを含めて、検討の余地は残されています。また、この秩父エリアということで考えてまいりますと、確かに商業科はないですが、例えば小鹿野高校では、総合学科という形で商業の学びが実際に行われています。総合学科というのは、普通科と専門学科の間くらいに位置するという性格を持っている高校です。小鹿野高校の総合学科の中の、文化教養系列に商業の科目が並んでいます。商業科にかなり近いことが見て取れます。名前が文化教養系列ですので、中学生には分かりづらいかもかもしれませんが、そうした商業の学びも、是非、この地域内で充実させていきたいと考えております。1点目については以上です。

依田委員長 今、事務局から説明がありましたが、松本委員、いかがでしょうか。

松本委員 恐らく、その辺のところ、一般の人には非常に伝わりにくいので、それが実際に受検に結びつくように、誘導と言いますか十分な説明を、生徒あるいは親御さんにしていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

依田委員長 はい。それでは、先ほどの松本委員のお話の2点目です。今後の秩父地域の全体像を、ということでしょうか。なかなか外からの流入がない中で、流出を避けていきたいというお話の中で、今後の秩父地域の県立高校の全体像はどうなん

だろうというお話かと思えます。事務局はどのように考えていますか。

事務局 人口減少、特に、高校生を入学させるという観点で考えると、15歳の人口はどうかということ、私たちが大変気にしています。全県的にも減少傾向がありますが、確かにこの秩父地域での減少幅はかなり大きいということが言われております。ですので、前にもお話ししたことがあります、生徒の数が減ってきて学校の規模が小さくなったとき、どうしても教職員が十分に配置できなくなってしまうということがあります。ですので、この辺りが、今回のような統合の一つの動機になったわけです。学校をどういうふうに県内に配置していくかということについては、秩父地域はもちろん、埼玉県全体として考えていかなければならない段階に来ていると思っております。今、行われている再編の元々の考え方は、平成28年に策定した「魅力ある県立学校づくりの方針」にあり、そこに今回の再編などがぶら下がっているわけですが、こちらが7年ほど年数が経過してきましたので、今、教育委員会の中で、新しい魅力ある高校づくりをどのように進めていくかということ、現行の方針に対する新しいバージョンのものを検討し始めているところです。ですので、今この段階で、こうですという見通しのようなものは出せませんが、教育委員会としても検討しております。その中には、県立高校の役割はどういうものなのかといったこと、例えば先ほどの商業科を含む専門学科の高校にはどういう役割があるのか、あるいは地域ごとの人口動態であったり地域ごとの学校の置き方をどうしていけば良いのかとか、そういったことが含まれてくることとなります。

依田委員長 松本委員、いかがでしょうか。

松本委員 ありがとうございます。一番最初にもお聞きしたのですが、学校の教員、先生の問題ですね、この辺もどうでしょうということで、これからの課題ということでお話をいただいていたかと思えますが、是非、例えば国際的なことになると、場合によっては社会人の講師を招へいするとか、そういうことまで幅広く御検討いただき、素晴らしい学校をつくっていただくことが必要だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

依田委員長 松本委員の御意見、十分に留意いただければと思えます。それでは、他にいかがでしょうか。はい。金田委員、お願ひします。

金田委員 秩父市総合政策課の金田でございます。先ほどの松本委員のお話と重複するところもあるのですが、本日、ペーパーに一つまとめさせていただきましたので、お配りすることは差し支えないでしょうか。

依田委員長 それでは、お諮りします。金田委員からペーパーを配布したい旨の発議がありました。皆様、よろしいでしょうか。

(了承の声)

依田委員長 はい。それでは、金田委員、お願ひします。

金田委員 急いで打ったもので、稚拙な文章で恐縮でございます。私の方から意見を申し上げたいのは、先ほど松本委員と全く重なるところがございまして。県の教育局のホームページに以前掲載された県民コメントに、募集した県民からの各意見が掲載されております。この中では、かなり秩父・皆野新校の意見が多く寄せられてお

りまして、その中でも目立つ意見として、やはり、皆野高校の商業科と秩父高校の普通科を統合する際の相性ですとか、そういったところはどうかという問題提起も、数多く見受けられました。これらの意見に対しまして、県のコメントとしましては、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいとのコメントが記載されております。併せて、検討委員会や準備委員会で検討すると書いております。また、前回、前々回のこの準備委員会の中でも、数名の委員から同様の趣旨の意見が出ておりました。今回お示しされた計画の案を拝見した限りでは、なかなかそのような意見が読み取れるところが少ないと感じております。これまでの意見で申しますと、進学校の色合いを薄めた方が良いのではないかといった話や、体験的な学びの要素を取り入れた方が良いのではないか、普通科、国際科の中でも商業の学びはできるのではないかといった御意見があったかと思えます。しかしながら、このままでいくと、県民の多くのコメントの意向が、なかなか文面として残らないのではないかという気がしてならないところです。今回のこの計画の案にはなかなか入れるところが見当たらないのですが、あえて入れるとすれば、最後の10付随する事項、ここで良いかどうかということはありませんが、ここに一つの項目を加えてはどうかという提案でございます。文面は稚拙ではございますが、例えば、案として、皆野高校のレガシーの継承といったタイトルで、皆野高校が取り組んできた教育活動や商業科のレガシーを新校の教育活動に生かすよう最大限努めるとともに、新校の学科に導入が難しい場合には、地域内の他の県立高校で商業を学ぶ機会を確保するよう関係機関へ働きかけるという案を考えました。趣旨は各委員がおっしゃっていたとおりです。小鹿野高校でも総合学科でというお話がありましたが、なかなか深いところまでいくと、若干違うのかなというところもありますので、是非、秩父内で商業を学べるカリキュラムと言いますか、この新校だけでなく、地域全体で確保できればと考えております。

依田委員長 今、金田委員から資料の配布と合わせて、配布した資料の中身について説明をいただきました。それでは、事務局に聞く前に、この金田委員からの発議について、委員の皆様から御意見はございますでしょうか。関連することでも結構です。はい。小菅委員、お願いします。

小菅委員 後押しになるか分かりませんが、私も生粋の秩父人で、夜祭も近く血が騒いでいるところですが、昨今の少子化、少子化どころか入試の定員割れ、これについては、歯止めがかからなくなる状況が見えているような気がします。今、魅力ある学校にするためにとか、あるいは、新校に相応しい学科名が国際教養科ということで修正案が出てきて、改めて私なりに考えてみました。国際探究科の前に、国際教養科というのが、なんとなく理解はできました。ただ、少し私も調べて、愛知県の刈谷北高校というところが、今年、国際教養科から国際探究科に名称変更しています。それはなんでだろうかと思い、調べてみたら、国際教養科の部分は、座学で語学重視。思考・判断・表現そして主体的に学ぶ態度を優先して、結局、文系進学の生徒を育ててきた。それがうまくいってステップアップなのか、それだけでは物

足りなくて名前を変更したのか、そこまでは分かりませんが、ただ、その刈谷北の方針として、理系への進学、企業との連携、大学との連携をして、体験的な活動をしないと、子供たちの力が付いていかない、だから国際探究科にして、そういった活動を取り入れる科にしたいと読み取れました。レベルアップとも取れますが、そういう物足りないところを改めて加えて、探究科にしたと私は捉えました。だから、国際探究科の前に国際教養科としたことに私は理解できないわけではないですが、果たして、国際教養科にしても国際探究科にしても、秩父・皆野新校に相応しい学科名なのかということを変更して考えたときに、首をかしげざるを得ない、そういう状況になっています。参考資料1の修正案に関連する意見の要旨の中にもありますが、本当に秩父地域のことや秩父高校、そして統合する皆野高校のことを考えてくれるのであれば、具体的に言います。観光科とか観光ビジネス科の方が、私は相応しいと考えました。聞けば、昨年度から、商業高校の授業の中で観光ビジネスというのを、教科の中で、教科として新設できるという話を聞きました。もちろん、商業科でなくても、普通科や総合学科でも、授業をしている学校もあるという話を聞きました。唯一、皆野高校の商業科のレガシーを残す一つの策として、観光科や観光ビジネス科という表示でいった方が、これからの子供たち、観光を学ぶことで秩父の若者の将来の可能性が広がるのではないかと考えています。かつて秩父は、織物産業、それからセメント産業、そして林業で栄えました。潤いました。でも今はその復活は厳しいです。今、何をやっているかと言ったら、観光産業しかありません。そう思います。観光で、秩父を持続可能にしていけないといけないという思いも非常にあります。したがって、観光科や観光ビジネス科という名称にすることで、地域産業が求める人材育成、地域と連携した体験、地元への愛着、それから、皆野高校の特色、そういったものを残せていけなかなと考えたところです。

依田委員長 はい。ありがとうございます。それでは、浦島委員、お願いします。

浦島委員 秩父高校PTA会長の浦島です。今までいろいろ委員からのお話を聞きまして、秩父高校は私も出身なのですが、その立場でこの案を見させていただくと、以前と繰り返しになるかもしれませんが、やはり今、私立高校など、秩父から、200前後くらいでしょうか、かなりの人数が他地域に進学している状況かと思えます。なるべくそういう方も、少しでも秩父地域の学校に進学してもらって、秩父の人はなるべく秩父で、よそから入ってこないということが実際ありますので。先ほどの話で、商業科、実際に皆野高校といえば商業科というのは、だいたい地域の人も分かっていることですが、もしその商業科がなくなったという形になると、パッと見て商業科に行きたいという子は、熊谷商業高校や深谷商業高校とかを選ぶと思います。ということは、これはまた外に出て行ってしまうという現実が待っているのかと思えます。先ほど、小鹿野高校や新校の中にも入れるという話もありますが、やはり、パッと聞いたときの商業科となると、熊谷商業高校や深谷商業高校は大きいですし、どうしても、皆野高校の商業科がなくなるのであればそちらに行こうかという生徒も増えてくるのではないかと思います。そうすると、更に流出が増えてしまう。その人たちを少しでも残していくという話が、先ほどの松本委員のお話で、小

鹿野高校や秩父農工科学高校の方にももう少し商業を充実させられるような、今後のことで今回ではないかと思いますが、今後、できたら良いのではないかという提案だったのかと私は理解しております。秩父高校の中で言いますと、今、特進クラスや上の生徒がすごくがんばっております、昨年度も国公立合わせて16名、現役で進学しています。結局、熊谷高校、熊谷女子高校、熊谷西高校、あるいは他の私立高校に行くような生徒、コロナの影響もあったのですが、秩父高校に進学するというので、先生方にも一生懸命がんばっていただいて、現役で国公立が増えています。それをもっと充実させて、国際教養科であれば外国語関係などをもっとレベルの高いものに、今まで外に進学していた生徒たちが、秩父高校の国際教養科に行き、もっと国際的な高いレベルの勉強ができるかな、じゃあそこに行こうかなという気持ちになるような学科にしてもらえると、よそに行く生徒も、更に言えば、飯能方面、熊谷方面からも、秩父高校の国際教養科に行きたいという生徒が増えると良いと考えております。それに対しては、やはり良い先生、良いと言ったら先生方に大変失礼ですね。先生方も大変頑張っていると思いますが、質の高い先生、又は、教員免許を持たなくても、先ほどもありましたが、一般社会人あるいは一般企業の方から、国際的な知識を持っている方を招致して、特別講師みたいな形で授業をやっていただくとか。聞いたところには、県南の方の学校で、帝国ホテルの料理人を講師に招いたということもあったということも話として聞いております。是非、その辺は、新校ということで、少しでも魅力あるということであれば、別に教員免許を持っている持っていないではなく、この人が教えに来るんだったら是非、秩父高校に行きたいなというような講師の先生を招くということも考えていただければと良いのかと思います。

依田委員長 はい。ありがとうございます。関連して、委員の皆様からございますか。

はい。嶋田委員、お願いします。

嶋田委員 皆野町企画財政課の嶋田です。先ほどの、秩父市金田委員からの提案、大変、私も賛同させていただきます。先ほどから皆様からおっしゃっていただいているように、第1回、第2回の会議録を見ましても、皆野高校のこれまでの取組に対して、非常に心強い御意見をいただいております、秩父市、あるいは秩父高校の関係者の皆様からも、そういった御意見を多くいただいているということに、非常に印象深く思っております。県民コメントにもそういったコメントが寄せられているということを見ると、やはりこの皆野高校が今まで取り組んできたことの継承ということ、何かしら、この基本計画の中に残していくべきだと思っております。そういった意味で、金田委員から提案いただいた、付随する事項のところにつけ加えていただけるということでも、もちろん結構かと思えますし、例えば、4ページの、教育活動等の基本方針の具現化の(5)その他に、皆野高校が今まで取り組んできた、地域の方と連携した取組を行っているところが特長だと思いますので、(5)その他のア、ここには、地域に貢献ですとか課外活動の充実を通して、というところがございます。また、この最後には、地域と関わりながら異文化に対する学びの機会を設けるとありますので、国際というところから異文化に対する学びに結び

ついているのかと思いますが、こういったところに、皆野高校の取組を継承するようであれば、商業系や体験といった文言を、少し修正してニュアンスを出していただけるようにしていくというのも良いのかなと思いました。

依田委員長 はい。ありがとうございます。では、田島委員、お願いします。

田島委員 皆野高校後援会長の田島です。実は昨年の段階で皆さんに御覧いただけたらと思って作っていたパワーポイントがございまして、本日は皆様のお手元にお渡しできませんが、昨年度は私がPTA会長、隣の横田委員が後援会長でした。今年は交代したのですが、PTAや後援会の方たちとお話しして、やはり国際というものは、確かに秩父高校をこれから引っ張っていただけるような方たちが十分必要だと思いますし、皆野高校では、そこを底上げするという形でビジネス科と言うんでしょうか。先ほど小菅委員からもお声を出していただきましたが、商業科ということで、国際ビジネス科と国際教養科の二つの案というのもどうなのかなということ、先ほどの小菅委員のお言葉を伺って、そういえばこういうのを作った覚えがあるということで引っ張り出してみても、やはり昨年の時点でそういう話をうちの学校の方でもしていたのですが、国際科は世界にはばたく人材を秩父高校から出している。今、やっていたいっている特進クラスの方たちもいらっしゃいますし、そこでビジネス科という、教養科とビジネス科、二つになるとコースという形になるのかなと思いますが、そこから欲を言うと二本立てというか、普通科もあって、国際科の中に教養コース、ビジネスコースみたいな形で、秩父市全体を盛り上げてくれる即戦力になる子供たち、そして、市役所や教育など、まとめてくれる人たちの両方が育っていけるような学校はどうなのかなと思いました。

依田委員長 はい。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。はい。若林委員、お願いします。

若林委員 秩父高校同窓会の相談役の若林です。前回のときには同窓会長でした。今回は相談役ということで、立場が変わりました。そして、議会の方では今年の6月まで横瀬町議会の議長をしておりました。例えば、各議会からの反対意見や首長からの反対の要望書といったものに関係がございましたので、私は、県の立場で、こちらに対しての回答をいただきたいということ、いつも言っておりました。このまま、県の方では口頭で、反対意見に対しての回答はしないというお話をされました。そして文書化はされないという見解を伺いました。それを地域選出の議員に相談したところ、県は文書では回答しないのではないかという話でした。しかしながら、そういう事実があるのですから、このまま放置してはいけないのではないかと私は思います。この反対を出した背景というのをよく考えていただいて、1市4町の首長は、秩父の置かれている立場、状況、この辺を本当に危惧して、各町村議会も同じ意見だと思いました。このままいってしまうのかということ、一つ危惧しているところです。この辺については、今後どうしていくのか、このままいってしまうのかということについては、お伺いしたいと思います。2点目、基本計画の中に、9 教育環境の整備があります。施設・設備の整備について必要な予算の確保に努めるというところがございます。昨年の8月6日の第1回の説明会のときに、

私は、県立高校で大型緊急自動車、救急車あるいは消防車等が入れない学校はあるのかということを知ったところ、秩父高校だけだという話がありました。今回、せっかくの機会ですので、市道であっても、県立高校の安心安全を進める上で、この機会に、改めていただいた方が良いのではないかと思います。そして、1 策定に当たった基本姿勢の中にも、生徒にとってより良い教育環境とあります。今、子供を学校に送り迎えする保護者等も増えていると思います。秩父高校、狭いものですから、車が往来するときに、すれ違い等も大変狭いのでできません。この辺も是非、考えて、良い方向に持って行っていただければと思います。3 点目です。7 開校準備のところにあります。具体的に申し上げますと、秩父高校が明治 40 年に裁縫女学校として開校して、平成 19 年のときが 100 周年記念でした。そして平成 29 年には 110 周年記念、このままいきますと、2027 年、あと 4 年後に 120 周年記念という事業が出てきます。こちらは、皆野高校と一緒にしたときに、どのような展開をするのか、あるいは、こういうことはしてはいけないのか、といったことが出てまいりますので、この辺についての見解をお聞きしたいと思います。以上 3 点、よろしく願います。

依田委員長 はい。分かりました。若林委員の今の 3 点については、また後ほど事務局から回答を得たいと思いますので、まず、金田委員からの提案について、各委員から御意見はございますか。はい。横田委員、願います。

横田委員 皆野高校 P T A の横田です。今回のこの基本計画案については、ほぼほぼ、私の方はこれで問題ないかと思います。ただ 1 点だけ、やはり皆さんと同じように、学科のところ。先ほど浦島委員からも、秩父高校は、進学校として頑張っている、今もそうです。だったら、例えば進学科みたいなものをつくってしまっ、エキスパートとして進学に取り組むというのも一つあるのかと思います。普通科は普通なんです。皆さんよく普通、普通と使うと思いますが、普通科には普通科、普通に学校に行って勉強してみたいなイメージしかないんですよね。それだったら、秩父高校を、きちんと進学もやれますよ、就職もありますよということで、進学についてはエキスパートコースみたいな形でコースをつくってしまう。進学校としてもきちんとやっていますよということで。一方で今回の新校としては国際ということが入っていますので、先ほど田島委員からもありましたが、ビジネスならビジネスということも踏まえて、コースをきっちり分けていくのが良いのではないかと考えております。その中で、進学だけにしてしまうと、私は普通の会社員、サラリーマンですが、例えば、国立大学を出た頭でっかちの人がいるんですよね。そういう人は勉強しかしてきておらず、他のことは何も身に付けていません。そこを、ビジネス科とかそういう教育も少し取り入れて、社会人としてのビジネスマナーなども少し取り入れて、人としての成長を促す、更に進学、国立大学を目指す、良いところを目指すというような教養、そういうような取組を、学科として今回の新校で取り組めば良いのではないかと考えております。なので、例えば普通科 160 人で 4 クラスということになってはいますが、進学校を目指すのであれば、そのクラスを一つ減らして、例えば国際探究科ではなくビジネス科など、他のクラ

スを少し増やしていくということで、ちゃんとビジネスの方も皆野高校の伝統を引き継いでいけますし、進学についても、きちんと進学校としての特色を残すということで、お互いの良いとこどり、それが今回の新校として一番あるべき姿なのではないかと思います。

依田委員長 はい。他にございますか。よろしいでしょうか。それでは、今、金田委員からの御提案に関連した部分について、整理をしながらいきたいと思えます。金田委員の御提案は、配布いただいたペーパーにあるとおりでございますが、それに対して、小菅委員からは、国際教養科ではなく、観光ビジネス科や観光科など、いわゆる地域産業としての観光を重視した学科ということは考えられないかというお話がございました。浦島委員からは、秩父高校の進学という特色は、やはりしっかりと堅持して、より発展させながら、有名な外部講師などを招いて、外国語のレベルを高くしていく必要があるというお話がございました。一方で、小鹿野高校や秩父農工科学高校も含めて、地域として商業を学べるようなことは考えられないのかといったお話がございました。田島委員からは、国際の学科の中に、コースを二つ、ビジネスと教養の二つを設けたらどうかという御意見がございました。嶋田委員につきましては、金田委員の趣旨に賛同をされた上で、教育活動等の基本方針の具現化の中に、皆野高校の取組を加えることはどうなのかというお話がございました。横田委員の方からも、秩父高校の進学と、商業系と、二つしっかり分けた学びはできないのかという趣旨のお話もございました。若林委員からの御発議については、この後になります。それぞれ意見がございましたが、ここで事務局の考えを聞いていこうと思えます。まず、金田委員からのペーパーに戻りますと、皆野高校のレガシーの継承という意味で、商業を学ぶ機会の確保という部分について、再度、事務局の考え方を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。

事務局 レガシーの継承というのは、この委員会でも、ずっと私たち事務局としても申し上げてまいりました。大事なところなんだということで、それを、統合を考えていく上での大前提としていかなければならないと思っています。ですので、金田委員からこちらにいただいたものは、趣旨としてはそのとおりだろうと思っています。実際に、付随する事項の一つの項目にするかどうかというところですが、計画の1 策定に当たっての基本姿勢がというところがございます。ここについては、(1)で、県立高校の再編整備は、中学校卒業生数が減少する中で、県立高校の活性化を進めるための教育行政上の重要施策であると言った上で、新校の設置に当たっては、対象校の特長を生かし、生徒にとってより良い教育環境の整備に取り組み、特色ある高校づくりを図るということで、当然、対象校の特長というのは、秩父高校であり皆野高校なんです。ですので、いただいたお考えというのは、ここに入ってきていると考えております。そして、学科についてです。これまでも御意見として具体的な学科名等はいただいているところですが、国際に関する学科は、文科省が定めている、高等学校設置基準というものがあります。これは、学習指導要領との関係で、高校はどういう学科を置いて良いかという法令ですが、この中に基づく、国際関係に関する学科を想定して、教育委員会としては、この新校に、普通科

と国際関係に関する学科を置くことと定めさせていただいております。ですので、例えば観光科や観光ビジネス科という名称の場合、大学科でいうところの商業科になってしまいます。実施方策で普通科と商業科の併置校をつくるということで進んできたのであれば、そういったことが十分考えられるわけですが、ここでは、国際関係に関する学科で私たちは考えてきております。現場の教職員と教育局の職員などから成る基本計画検討委員会の方でも、その辺りを考慮しながら、大学科としては国際関係に関する学科の中で検討を進めてきたという経緯がございます。もちろん、商業の学びのレガシーはいろいろな場面に出てくると思います。特に探究の学びというのが、今まさに秩父高校が直接取り組んでいる、「学・SAITAMA」という、学際的な学びを推進していくプロジェクトがあります。また、皆野高校がずっと取り組んでこられた課題研究などを通しての、企業や地域の方と連携した様々な商業科の取組も当然あるわけで、関東大会にも出場されるなど、そういった良いところはもちろん取り入れていきたいと思っておりますが、学科については、法令によるところの、国際関係に関する学科の範囲内で検討したいと考えております。

依田委員長 確認です。その国際に関する学科の中で、商業を学ぶ機会を確保できるように、新校開設委員会の中で、この後、議論いただけるということでしょうか。

事務局 来年度立ち上がる委員会として、新校開設委員会というのがあります。それぞれの学校の管理職に委員を務めてもらって、その下にそれぞれの教職員がぶら下がっているというイメージの委員会です。こちらは、教育課程を決めていく、あるいは制服や校歌や校章をどうするかなど、細々としたことを考えていく委員会ですが、特に教育課程を決めるというのは大変重要なミッションです。ですので、その中で、学科名をこちらで固めた後で、その範囲内で、例えば商業の学び、例えば皆野高校の良いところ、例えば秩父高校のこれまでの取組、こういったものを取り入れていくことは十分可能で、そのような検討を、来年度行う予定になっております。

依田委員長 分かりました。コースについての委員からの御意見もありましたが、ビジネスコースなど、科の中でコースを分けるようなことは、検討は可能なのでしょうか。

事務局 検討は可能かと思えます。

依田委員長 それでは、来年度の開設委員会の中で十分に議論いただきたいと思えます。それでは、具体的にいきましょう。金田委員からありました、10 付随する事項の(4)に、皆野高校のレガシーの継承という部分を加える、あるいは、嶋田委員から発議があった、教育活動等の基本方針の具現化の(5)その他の中に、同様の趣旨の、皆野高校の体験的な学びやビジネスの学びなどについて加えるということについて、事務局の方で何か考え方はありますか。

事務局 事務局側では、今、六つの新校を立ち上げようと準備を進めております。何度か御説明の中で申し上げたように、その6校が共通して書いている部分がありまして、例えば、先ほど言った、1 策定に当たっての基本姿勢というのは、大変大きな本県教育委員会の考え方になっています。ですので、これは6校全ての新校で同じ内容になっています。それぞれの統合のパターンの中で、必ず校舎を閉じる学校

が出てまいります。そちらの取組、レガシーを継承していくということ、ここで表現させていただいております。他の新校の方ではそういう記載を別建てでつくっていないということもありますし、私たちとしては、この中で全て表現ができていると考えて、文言を練ったつもりです。

依田委員長 その外国語のレベルを高くして外部講師を呼ぶような取組を、というお話もありましたが、これについて、事務局はいかがでしょう。

事務局 たくさんの御意見を頂戴する中で、たまたまここにペーパーがあるので、金田委員の、進学校の色合いを薄めるというような発言が多かった回もありますし、いやいや、やはり秩父高校はこの地域随一の進学校であるべきだという御意見もあって、いろいろな御意見が出ていたというのは、確かに事実だと思っています。私たちが最終的に文言として整理していく中では、進学校というようなニュアンスと取れる部分も入れておりますし、進学もいろいろありますが、大学への進学ももちろん想定した形での進路指導など、そういったことも読み取れるようになっているとは思っております。当初、それぞれの学校が作ってきた案の中には、割と進学校とストレートな言い方もありましたが、私もそれぞれの教職員などこういった委員会の場で顔を合わせますが、教職員の思いとしては、やはりそういう使命を、地域の期待を背負っているという形で、秩父高校の教職員は考えています。そして、皆野高校の教職員は、やはり地域の中であって、地域とどうつながっているのか、地域にどう貢献しようかということを考えながら、日々、生徒と向き合っているということを感じます。ですので、こちらに出てくる表現は、もちろん事務局で最終的に整理しましたが、基本計画検討委員会の中での議論を、限りなく盛り込んだところです。この表現から、この準備委員会の皆さんが感じになったところを御意見として頂戴して、最終的な形でまとめさせていただけたらと考えております。

依田委員長 それでは、各委員から今の事務局からの話を受けて、更に御意見を伺ってまいりたいと思います。いかがでしょうか。はい。大沼委員、お願いします。

大沼委員 先ほどの事務局からの説明を聞いて、もう国際でいくということがかなり煮詰まっているということがよく分かりましたので、自分が今日用意した意見は、却下した方が良いでしょうなということで、考えて調べてきたのですが。実は、これは直接議論にはありませんが、前回出た意見として、参考資料1の1ページの上の学科名のところに、果たして国際探究科が子供たちにどれだけ魅力があるのか、皆野高校が果たしてきた役割を踏まえれば、もう一つ別の学科があっても良い、国際探究科でも良いかななど、様々な意見がありましたので、ここを考えてきました。長崎県に、松浦高等学校という学校があります。長崎県立松浦高等学校普通科で出てきましたが、普通科の改革をしたパイロット校ということで全国初の地域科学科を新設し、ほぼ皆野高校でやっていたような、お菓子作りも、メーカーとコラボした取組も、地域の貢献活動も、全てやっています。これは長崎県の例ですが、他にピンとくる学科があれば、地域科学科も言おうかと思ったのですが、そして内容も紹介しようと思ったのですが、国際で進むということが決まっているのであれば、

披露する場ではないと思ひまして却下させていただきます。その代わりにもう1点、お話ししますが、果たして本当に国際である程度やっていけるのかというのが、地域としても、検討委員会としても必要ではないかと。そこにニーズはあるのか。我々はこういうのが良いんだろうと考えるかもしれませんが、では、子供たち、地域のそういったニーズはどうなのか。アンケートを取ったらどうかという意見が前回も出ましたが、アンケートは取ったのでしょうか。これは聞きたいところなのですが、取ったか取らないかは別としても、卒業予定の中学生の進路希望状況調査というのがございます。これは時々で作っており、新聞にも公表され、ホームページにも出ています。これの10月1日現在の埼玉県の各校の全ての希望、ニーズが出ています。これは現実ではないかもしれませんが、希望ですが、だいたいのニーズは分かります。そうしましたところ、埼玉県には国際と名の付く学科がある学校が一つございまして、岩槻高校の国際文化科です。実際に40人の定員に対して32人、0.8倍。これをまた秩父地域でやって、やっていけるのだろうかという心配がありましたので、これは意見ということで披露させていただきました。

依田委員長 それでは、引き続き、学科に関しての御質問です。今の大沼委員のお話を私の方でももう少し具体的に解説します。埼玉県の中で、外国語科というのは結構あります。ただ、いわゆる国際という名前が付くのは、1校だけです。その国際という名前の付く学科は、岩槻高校という高校、ここも普通科と国際文化科という学科があります。国際文化科は40人募集、1クラスの学科です。この学科の10月1日時点の倍率が、0.8倍となっています。1.0倍が定員ぴったりということですので、定員に満たない状況になっているわけですが、これについて、大沼委員から不安視する御意見があったということです。ちなみに、あくまで10月1日ですので、最終的な倍率とは違いますが、10月1日時点の中学生の意向ですと、ちなみにこの秩父高校は0.94倍で、もう少しで定員ぴったりというところになっています。あくまでも最終的なものではありませんので、最終的にどうなるかはまだ分かりません。そういう状況についての大沼委員からの危惧です。それでは、事務局に伺います。事務局の方で、この岩槻高校の国際文化科の倍率を見て、大沼委員からの御懸念に対してどのように考えていますか。

事務局 埼玉県の学科というのは、大学科の中に小学科があり、この国際文化科は小学科という言い方で良いと思います。大きなくくりで言うと、今のところ、本県には国際関係に関する学科はありません。今度の新校に、大きなくくりで言う国際関係に関する学科を初めて設置しようと考えているわけで、今、出てきた国際文化科は、大きなくくりで言うと外国語科に当たるのではないかと考えています。国際文化科というのは、最初に岩槻高校の普通科の中に国際文化コースというのを置いて、この国際文化コースを学科に昇格させたものです。当時、他にも外国語コースを立ち上げた学校がいくつかあって、現在で言いますと、春日部女子高校、越谷南高校、坂戸高校、草加南高校、南稜高校、和光国際高校、蕨高校、そして岩槻高校です。現在もまだ普通科の中に外国語コースとして設けているのが大宮光陵高校です。ですので、明確に外国語科という名前を出しているのは7校で、外国語科とは名前が

違いますが、同じような教育を行っている国際文化科が1校ありまして、普通科の中に外国語コースを置いているのが1校という形になっています。この合わせて9校を考えたときには、全体として倍率は1.0倍前後、若干の変動はありますが、10月1日現在の進路希望状況調査でも、1.0倍を超えている学校もあります。ですので、国際文化科だけとの比較だと、確かに倍率は今回0.80倍でしたが、今年の春の入試ですと、国際文化科は1.15倍、その前の年が0.78倍、その前の年は1.08倍となっており、やはり波は若干あります。特に外国語科というのは、コロナの影響で、海外への短期留学や海外との国際交流がなかなか出来なかったということもあり、近年は少し苦しい状況にはありますが、いろいろな学校で今、国際交流などを再開していますので、この先、人気がまた戻ってくるということも十分にあり得ると思います。今、学校名を挙げたのは、この北部から秩父地域にかけては、外国語科という学科を持つ高校が一つもありません。ですので、この地域に、名前は少し違いますが、国際科と外国語科は非常に似ているところがあります。外国語科は外国語を学ぶ、国際科は外国語をツールにして、国際的な関係性、国際的な文化や国際的な交流を学んでいく、そういう教養を学んでいくということですので、この地域に、そういった新しい学びが初めて入ってくるという意味では、意義はあると考えております。

依田委員長 大沼委員、いかがでしょうか。

大沼委員 県の方針は分かります。それから、北部地域にという計画も分かります。それは、設置する側としての御意見だと思いますが、やはり子供がどんどん減っていくのは先ほどの話からも分かるわけですが、ある程度コンスタントに魅力あるコースなり学科なりがここにはあって良いよということが、ある意味、秩父地区の、あるいは秩父でなくても北部全体の子供たちを含め、魅力ある学校だと、今後も存続していけるような、そんなふうになっていくのではないかと思って、やはり内容や学科は重要なのではないかと思います。1.0倍というのは、最終的な受検の倍率なのかもしれませんが、やはりコンスタントに、これからつくるのであれば、それ以上のものをつくる必要、あるいは考える必要があるのではないかと思います。そうすると、今までの皆野高校のレガシーを引き継ぐということだとなかなか難しいなということになりますが、そこは割り切って新しいものをつくるという気持ちにもならざるを得ないのかとも思いました。

依田委員長 はい。今の御意見についてはよろしいですか。事務局はよく踏まえて、新校開設委員会の中でも議論していただきたいと思います。他、いかがでしょうか。はい。浦島委員、お願いします。

浦島委員 先ほど私が、一般企業と言いますか質の高い人材の方を是非、招いていただければというお話をさせていただきましたが、この基本計画の6 教育活動等の基本方針の具現化の(1)教科指導のアのところに、幅広い教養を身に付けるための授業を行い、補習・講習の充実及び外部教育機関との連携を図る、とありますので、ここをできましたら、補習・講習の充実のため、外部教育機関、一般企業等との連携を図る、という文言にさせていただくと、そういう方も、機会があれば入れてもら

えるのかなという気がするのですが、いかがでしょうか。

依田委員長 はい。具体的な御提案をいただきました。事務局、いかがですか。

事務局 事務局の方でもいろいろと文言を練りながら、それぞれの学校から上がってきた文言を調整しながらきておりますが、補習・講習の充実という、これまでの取組が、例えば秩父高校にあります。皆野高校にも、もちろんあります。資格取得等のために、こういった補習や講習が行われているので、どちらでも行われているレガシーですが、そういったものは一つの取組として、もう一つは、外部教育機関と書きましたが、大学であったり、あるいは小・中学校の先生方とコラボするということもあるでしょうし、そういった教育活動等が比較的、親和性がある団体と考えておりました。もちろん、企業に限らないと思いますが、いろいろな研究機関もそうかもしれませんし、外部機関という表現にすれば、いろいろ包含できるのかなと思います。事務局の方で文言を最終的に整理させていただけるのであれば、そんなに趣旨が違うものではないと思いますので、その趣旨を盛り込みたいと思います。

依田委員長 はい。よく検討いただければと思います。他、いかがでしょうか。事務局からいろいろ説明がありましたが、それについてでも構いませんし、新たなお話でも構いません。いかがでしょうか。はい。守屋副委員長、お願いします。

守屋副委員長 いろいろな御意見があって、若林委員への返答がまだですので、その時間も確保しなければならないと思いますので、手短にお話したいと思います。新しい学校ができるわけですが、どうしても、新しい学科のところだけ目がいっているような気がしますが、皆野高校の伝統の継承は、学校全体で引き受けるつもりでいます。ですので、どうしても新しい学科の中にビジネス的なところを残さなければならぬかとか、そういったことにこだわらないでいただければと思います。普通科の選択教科の中の一部に、商業系の関係のものを入れるだとか、そういうことは、これから可能です。ただ、名前を聞くと、どうしてもビジネスというのがあるかないかで大きな違いがあるかもしれませんが、皆野高校がやってきた地域との連携というのは、先ほど事務局からもありましたが、総合的な探究の時間、これは必ずやらなければならないもので、今年も秩父高校でも、1、2年生が地域の企業に来ていただいて授業をやったり発表したり、他県の高校と連携して様々な取組をやっておりますので、そういう活動の中で、皆野高校がこれまでやってきたことを引き継いでいければと、私の方では今のところ考えております。当然、秩父地域の中で進学はどこがやるのかと言ったら、新校がやるしかないと思っておりますので、そこを外して、今まで事務局が、進学校の色を薄めると言っていたのは、進学校という言葉を入れてしまうと、地元の中学生在が敬遠するきらいがあるので、進学校という言葉は、少し弱めていくけれども、秩父高校が進学を目指すことをやめるということはありません。ですので、秩父谷の生徒を、新校と秩父農工科学高校と小鹿野高校で面倒を見ていくにはどうしたら良いかという視点で見ただけであればと思います。国際教養科というのも、両校の教員も集まって検討を進めて、これで行きたいということになっておりますので、できればこの形で進めていただければと、大変有り難いと思います。

依田委員長 はい。いかがでしょうか。皆様から何かございますか。はい。横田委員、お願いします。

横田委員 守屋校長先生、ありがとうございます。今、少し引っ掛かったところは、余り進学と言い過ぎてしまうと生徒が敬遠してしまうというのであれば、例えばそれは本当に進学のために高校に来ているのということが一つあるので、だったら、普通科・進学校というところを明確にさせていただきたいと思います。もう一つ、商業科は多分無理だと思いますが、だったら普通科の中で秩父高校も今、やっていますよと、それを入学のときに分かりやすいようにしてもらいたいというのが一つあります。要は、普通科というだけで来てしまうと、本当に普通科。入れ込むのは、全然、こちらとしても大歓迎ですが、入れ込んだ内容が今の中学生たちにちゃんと伝わるような仕組みを作っていただければと思います。

依田委員長 これは事務局でお願いしたいと思います。特に2点目ですね、普通科の中の学びについて、ここで議論したようなことを具現化した際には、しっかりと中学生に分かるようにということ。あとは、進学校の色合いを薄めるということについて、中学生が敬遠するということが、ちょっとどういうことなんだろうかという部分。特に最初の、普通科の中の学びについては、どのように中学生にアピールしていくのか、事務局の考え方をお願いしたいと思います。

事務局 これで基本計画が固まりますと、来年に向けてはいよいよ、外に向けてのPR、特に中学生、地域の方に御理解いただかないと、先ほどから言っているように、この学校に生徒が集まらないという状況になりますから、それはしっかりとやっていくつもりです。過去の事例になりますが、第1期の児玉高校や飯能高校については、大変力を入れてPR活動をしています。その中には、こちらで話題になっているような普通科の中の学び、普通科というのは無色透明と言いますか、広く普くというのが普通科なので、いろいろな取組ができます。教育課程の組み方によってはいろいろな色が出せるはずですよ。今、議論いただいているように、是非、皆野高校のレガシーをということであれば、そうした学びが具体的な科目等にも入ってきます。そうすると、この学校に入学するとこういう学びができますといった案内が打ち出せるようになります。ですので、教育課程を作りながら、外に向かっては積極的なアピールをしていくということ、しっかり進めていこうと考えているところです。

依田委員長 今の子供たちの特性と言いますか、余りスパルタ的なイメージというのが、全体的になんとなく今の子供たちは敬遠するような雰囲気があることは間違いないところかと思えます。いわゆる普通の子供たちが入った中で、どのように子供たちを意識付けしてやる気を起こさせて、将来に向けての努力を喚起させるかという意味では、余り最初から進学校だと言わないというような部分を、事務局が慮ったということは、私もそういうニュアンスで受け止めているところです。ですから、決して、秩父の高校に来る子供たちが進学を求めているということではないのかなと思っていますので、御理解いただければと思いますが、横田委員、いかがでしょうか。

横田委員 はい。

依田委員長 それでは、私の進め方がつたなく、時間が過ぎてしまったのですが、皆様の意見については、この後また事務局の方で整理をすることにしますので、若林委員からの御発議について、よろしいでしょうか。まず1点目です。首長から要望書、又は議会から意見書が出ていて、それについて、県の方からの文書回答がないと。それについてこのままで良いのかという1点目の御発議については、前回の会議で私の方で預からせていただいたということがございます。これにつきましては、引き続き、秩父市、皆野町はもちろん、その他の秩父地域の方々についても、機会を見つけて、あらゆる機会を見て、私の方で丁寧に説明を続けていきたいと思っております。いろいろ御意見、御要望があると思いますが、これについては、また機会を見て説明を続けていくということで、私の方で引き続き預からせていただければと存じます。2点目、大型の緊急自動車が入れない状態にあるというお話は、昨年の説明会でもあったようですが、これについてこの機会にという話がありましたが、こういったことについては、事務局、いかがでしょうか。

事務局 昨年夏の説明会でも話題になりまして、そのときには、たまたま首長も御出席だったので、この話は首長にも伝わっているものと思っておりますが、県の行政の範囲と市町の行政の範囲の境界線があると思しますので、もちろんこちらとしては、学校が困っているということであれば、当該の市町にも御相談をさせていただきたいと思っておりますが、県の予算を積むというのは、なかなか難しいのではないのかと思っております。予算についても、具体的にこうですと書いていません。この先、予算の確保に向けて精一杯がんばっていくという私たちの姿勢を示すまでになっているのは、やはり予算はその年度年度で決まっていくものですので、今は具体的なお約束はできないということになります。それも含めて、御容赦いただければと思います。

依田委員長 若林委員、この緊急自動車の話、私も不勉強で余りよく理解できていない部分もありますので、この後、よく秩父高校の話を伺ってまいりたいと思っております。それでは、3点目、2027年に120周年を迎えると、統合になったときに、この120周年をどう考えるのかという趣旨かと思っております。事務局、どのように考えますか。

事務局 それぞれの学校の創立を祝う周年の行事を考えていくのは、基本的には同窓会の皆さんです。実際は校長先生と御相談いただく形になりますが、統合された場合には、まず同窓会の組織をどうするかという、前の段階の問題があります。例えば、秩父・皆野同窓会ということで一つにまとめてしまうのか、あるいは、それぞれの同窓会が並行して残っていき、新しい学校の同窓会を、今後の卒業生たちが入ってくる中で第3の同窓会として立ち上げるなどいろいろなパターンがあります。ただ、度々申し上げているように、統合というのは二つの学校の歴史がつながっていきますので、そうすると、考え方というのは、始まりが古い方がスタートというふうにカウントすることもできます。この辺も、同窓会組織がどうなるか、あるいは同窓会の皆さんがどのようにカウントしていくのかに拠るところがあります。平成の年代に行われた、いきいきハイスクールという、10年くらい前までに完了した

再編整備では、新校によってはゼロリセットして、最近 10 周年を迎えましたとか、今度 10 何周年なんですという学校もありますので、この辺りは、校長が間に入りますが、是非、御相談いただきながら、固めていただければと思います。

依田委員長 はい。若林委員、いかがでしょうか。

若林委員 道路の関係につきましては、県民の安心安全という見地から、是非ともそういうことを分かった時点で、市の方へ働きかけていただくということも、統合に当たっての一つの方法かと、そうした意味でも大変期待しているところです。昨年の 8 月の説明会で、市長もそこにいながら、今度こそお願いしたいというお話をしましたが、県の方からも、安心安全な、県民を守るという見地からもお願いをしたいと思います。そして、秩父高校については、明治 40 年の裁縫女学校がスタートで、その後、秩父商業と工業といろいろ変遷して、昭和 25 年だったでしょうか。私は昭和 43 年度の卒業生で、19 期生ということでしたので、こちらについても、120 周年を迎える学校もなかなか少ないですので、先般、松山高校が 100 周年だったと聞いていますが、こちらは 120 周年になるわけですから、この辺の誇り、レガシーというのがあっても良いのではないかと思います。校長先生もおりますので、是非、御相談させていただいて、やっていければと思います。

依田委員長 はい。御意見として受け止めさせていただきます。時間が過ぎておまして、委員の皆様には大変申し訳ございません。まだ御発言をいただいていない委員の中で、是非という方がいらっしゃるれば、御発言いただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。はい。堀口委員、お願いします。

堀口委員 皆野町商工会の堀口です。先ほど、校長先生の方から大変心強いお言葉をいただきましたので、校長先生のお考えに沿ってやっていければと思います。先生や県の職員の方たちは、年度が替わると、どこに行ったんだろうねということがありますので、そういうことがないように、今、校長先生から御発言いただいた言葉に沿って、私たちも協力していけたら良いなと思いますので、是非、よろしく願いいたします。

依田委員長 はい。承知しました。他、御発言いただいていない委員の中で、いかがでしょうか。はい。廣川委員、お願いします。

廣川委員 時間がない中で申し訳ございません。魅力ある高校づくり課の課長の廣川です。委員として参加させていただいております。皆様には、大変建設的な御意見をお聞かせいただいたとっております。お聞きする中で私が感じたところですが、一つは学科について、秩父地域の子供たちのことを考えて、皆様からいろいろな御意見をいただいたとっております。一つ、県の職員として思っているところは、国際に関する学科については、外国語科の倍率の話も出ましたが、これからの時代を考えたときに、国際社会の中でやりとりしていく人材というのは、どこに地域においても必要なことだと考えております。そういう意味では、今の人気がどうだったということではなく、子供たちにこういう力を身に付けさせたい、こういう人材を育てたいんだという趣旨で、今回の実施方策では、国際に関する学科及び普通科の併置校という整理をさせていただいております。いろいろな御意見をいただい

りますが、そこは御理解をいただければ有り難いと思っています。その中で、例えば進学やそういったコースについては、学科の中で考えていけるところがあるのかなと考えているところです。もう一つの話題として、皆野高校のレガシーというところはどうなんだというお話があったかと思いますが、商業をどう整理するのかというところについては、校長先生からお話があったとおり、なかなか学科やコースというところまでは難しいのかなと思いますが、教科として取り入れていくことについては、しっかり検討し、それを対外的にアピールしていけるような形にできると良いと思います。私は、皆野高校のレガシーは、一番はやはり地域と連携して、様々な課題探究型の取組をされてきたところだと思っています。そういったノウハウは、非常に大きな部分かと思っていますので、こういったものをしっかり継承していけたらと思ったところでございます。

依田委員長 それでは、時間も時間ですので、副委員長である両校の校長から一言ずつ話をいただきたいと思っています。

浅見副委員長 皆野高校校長の浅見です。私もいろいろ発言しようと思って準備してきたのですが、本当に皆様からいろいろな御意見や御質問がありまして、秩父地域に新しい学校ができるということに、御心配もあるのかと思います。倍率が出るのだろうか、子供たちのニーズはあるのだろうか、そういった話も出てきています。秩父高校と皆野高校が統合して、この秩父高校の場所に新しい高校ができるということで、先日11月17日に、秩父4校の高校見学会というのがありました。秩父地域の中学1年生全員が、4校を見学するという趣旨でやっています。もちろん、皆野高校には今の中学1年生は来ませんので、秩父・皆野新校ということで、私の方で秩父高校にお邪魔して、新校について触れさせていただきました。そのときも、秩父地域に新たな高校ができるんだというお話をさせていただきました。国際感覚を身に付けた生徒、秩父高校は、もちろん国際感覚ということで、以前もいろいろとお話をいただいておりますが、普通科ではありますが、国際的な見地に立った学校だと承知しております。皆野高校も、いろいろと海外の学校、海外の方との交流を、地域というキーワードの中で行っております。基本計画の案の中にも、進学という言葉はもちろんあるわけですが、地域という言葉が本当に数多くあって、数えたら、地域という言葉が17、入っております。国際地域科や国際観光科など、いろいろ御意見がありました。国際感覚を持つ生徒を、秩父の子供たちを、地元の秩父で育てて、地域を活性化させる。外国語なども学ぶというお話もありましたが、秩父高校の特進クラスなどは、そういったことをやっているかと思っています。国際に関する学科ということで、外国語だけでなく、皆野高校がこれまで取り組んできた、秩父についても深く学び、秩父が大好きな若手を育成し、秩父を世界に発信するという国際感覚を。逆に世界中から秩父を訪れるインバウンド対策、秩父にも多くの外国の方が来ておりますが、そういった方たちに、秩父・皆野新校の国際に関する学科で学んできたものを、地域の中で発揮できる人材育成。本物の秩父大好き人間と言って良いのか分かりませんが、国際感覚を身に付け、秩父に住んで、盛り立てたい、定住を考えてくれる制度設計が、地域にとっては大きな課題で必要なことだ

と思っています。県から示された計画案には、秩父を学び、発信し、おもてなしができる人材育成を感じさせると私はと思っています。そういった人材を育成する案になっていると思います。また、そういう学校をつくっていかねばならない。秩父高校と皆野高校の両校の素晴らしいレガシーを取り入れた新校は、こうしたことを可能にしてくれる学校だと思っています。倍率が出るのか、本当にそれで集まるのかということはもちろんありますが、これだけの人たちが、この準備委員会、検討委員会ですごい時間をかけて、いろいろと話し合ってきております。これは素晴らしい学校ができるんだということで、大人が、新校は大丈夫だろうかと思っていれば、子供たちにも必ず伝わってしまうと思います。新しい学校ができるんだ、秩父高校と皆野高校が、それぞれ分野は違いますが、これを合体した学校、これは良い学校になることは間違いないというような、進学だけではなく、地域の事業所にも就職できる、進学した後もリターンで就職できる、そんな学びができる、地域になくてはならない、地域に必要だとされる学校づくり、進学もそうですし、地域に根付いた学校がつくれるのではないかと、そういった基本方針になっていると思います。是非、そういったことで、今後とも応援していただきながら、中学生や地域の方に浸透できる、新たな学校ができるということで、理解していただけると良いのかなと、閉じる学校の校長として思っております。

守屋副委員長 先ほど話をさせていただきましたし、浅見副委員長からもたくさん語っていただきましたので、十分でございます。ただ、本校の場所に新校ができるということで、若林委員から、前の道路を整備していただければというお話があったり、県の方でも学校内の整備についてはいろいろお考えいただいているところではあります。我々としては、是非、良い学校をつくって、進学もできるし就職もできるしという学校にしていきたいと思っております。本日は市役所から来ていただいておりますが、今年、3年生5人が、秩父市役所に合格をいただいてお世話になることも決まっております。そういったことも含め、進学もできるし就職もできるし、生徒が希望する進路に進める学校だということアピールしていきたいと思っておりますので、是非、よろしく願います。

依田委員長 ありがとうございます。私の進行がつたなく、予定の時刻を20分過ぎております。本日は、皆様からたくさんの御意見を賜りました。多様な御意見をいただいている中で、皆様方に共通するのは、秩父の子供たちにとって、秩父の学校を魅力あるものにして、この子供たちが秩父の中で学んでいくことをどうすれば実現できるのかという、その1点は、全ての委員の皆様に通じたものだと受け止めさせていただいております。私も、皆様のその思いを、今後ともしっかりと受け継いで、事務局ともども、県教育委員会として、そういった様々な思いに応えられるように、努めてまいりたいと思っております。ここで皆様に伺いたいと思っております。本日はいただいた御意見を受けて、基本計画案を更に整理し、修正することとなります。その修正したものについて、伺いたいと思っております。私と両副委員長にお任せをいただけるのか、それとも、もう一度、予定ですと3回と御説明させていただいております。もう一度、皆様方にお集まりいただき、御議論をされるのか。それに

ついて、どちらを選択すれば良いのか、皆様に伺いたいと思うのですが、私としては、私と両校の校長である副委員長にお任せいただければ、様々な御意見をなるべくしっかり取り入れるよう事務局に申し出たいと思います。そちらの方でよろしいでしょうか。遠慮なく、御反対であれば御反対で結構でございます。4回目を開催することも、可能でございます。横田委員、どうぞ。

横田委員 資料だけは事前に、策定前に配布はあるのでしょうか。

依田委員長 表に出る前に、必ず皆様方に資料は提供させていただいて、その時点で御意見があれば、伺うようにしますが、ただ、御意見がまた多様になってしまうと、結局、そこをどうするのかということになりますので、ある程度のところでということになりますが、必ず資料の方はお送りさせていただき、お目通しをしていただくようにさせていただきます。いかがでしょうか。はい。浦島委員、お願いします。

浦島委員 委員長、副委員長の方で検討していただくことになるかと思いますが、検討した時点で、終わったらすぐに、こんな感じにまとめましたというのを、すぐ流していただいて、そこで読ませていただいて、意見等があった場合はお話しさせていただいて、といった方が良くと思います。まとめて、表に出る直前に私たちにいただいても、そこで変えられないと思います。ですので、委員長、副委員長でまとまった時点で、委員の方に、申し訳ないですが、流していただいて、こう言うてはなんです、私たちに確認させていただきたいと思います。

依田委員長 それはもちろんでございます。それが大前提で、必ず御確認いただいて、必要な御意見は承りたいと思います。それでは、今の浦島委員からのお話のとおりでもよろしいでしょうか。

(了承の声)

依田委員長 ありがとうございます。それでは、私と両校の校長である副委員長で整理をさせていただいて、まとめたものを速やかに皆様方に送らせていただきます。速やかにと言いましても、事務局の作業がございますので、一定程度のお時間をいただくことにはなりますが、まとめましたら速やかに、皆様方に御確認いただくようにいたします。御確認いただいた上で、余りにも御意見がということになれば、またその際でということになりますが、先ほど申し上げましたとおり、今年度中の策定ということで、この1、2か月で教育委員会に報告して、策定という流れになってまいりますので、かなりタイトなスケジュールになってまいります。その点は御了承いただいた上で、整理をさせていただければと思っております。それでは、大変つたない進行役で申し訳ございませんでした。本日の協議は以上で終了させていただきます。ありがとうございました。